

特集

地元の

「農」力



米の力

「ごはんをおいしそうに食べる孫の顔を見るのが楽しみだね」



刈り取り作業をするご夫妻

米作りで苦労したことは何ですか、との問いに「苦労？ 大した苦労はしてねえなあ」と答えるのは、川崎で農業を営む岸澤さん。この余裕は、50年以上のキャリアから来るものでしょうか。「強いて言えば、水の管理かなあ」川崎の揚水組合長も務める岸澤さんは、水田に引く水の量を調節する仕事の責任者でもあります。「雨が少ない時は水の量を増やさないといけないし、雷が来たら急いで水を止めないといけない。用事で出かける時も天気が気になって、落ち



岸澤重雄さん (川崎)



脱穀したもみはすぐ乾燥機にかけます

着けないんだよね」。一息つけるのは、中干し（地固めをして稲をしっかり根付かせるために約一週間水を止めること）の時くらいだそうです。市の北端に位置する川崎の水田地域は水はけが良い土地で、井戸水を利用していため、米がおいしいと評判とのこと。品種はコシヒカリとキヌヒカリをおよそ7対3の割合で作っているそうです。ことしの米の出来具合はまあまあとのこと、「去年よりちよつといいかな。長年やってるけど埼玉は気候が安定してて、冷害っていわれる年でもなんとか収穫できちゃうんだよね」。米作りの良さは、と尋ねると、「もうずっとやってるから普通のことになっちゃってるけど、孫に『おいしいね、おじいちゃん』って言われるとやっぱりうれしいよね」と笑って答えてくれました。



一部のレシピを31ページで紹介しています。

市内で採れる代表的な野菜のホウレンソウ、サトイモ、カブを取り入れた献立です。自主糖尿病コントロールの会（市報7月号18ページで活動内容を紹介しています）の皆さんが調理しました。

米やいろいろな野菜が採れるふじみ野市。
地元の農業の力を知ること、
農産物の見方が変わってくるかもしれませんよ。

地産地消を推進

ふじみ野市は「ベッドタウン」というイメージがありますが、農地面積は市全体の面積の約20パーセントもあります。市の農業は、農地が市街地と調和しながら存在していることから、都市型農業であるといえます。

都市型農業は、新鮮な農産物の供給という役割だけでなく、身近な農業体験の場や、災害に備えたオープンスペース、潤いや安らぎを与えてくれる緑地空間の提供など、いろいろな役割を果たしています。

畑は作物の連作障害を防ぐため、土壌を休ませることが必要ですが、休耕地では、風が強い時は土ぼこりが飛び散り、近隣の皆さんの迷惑になることがあります。市は対策として、肥料となる小麦の種や菜種を農業者に配布し、育ててもらうことで、土ぼこりの飛散防止に努めています。

農業クイズ

- Q1 次の野菜は、ふじみ野市の平成24年JA出荷量の上位を占めた野菜です。第1位から順に並べてみましょう。
- 1 サトイモ
 - 2 枝豆
 - 3 ホウレンソウ
 - 4 カブ

Q2 市内の農地面積は、市全体の面積の約何パーセント？

- 1 10%
- 2 20%
- 3 30%
- 4 40%

Q3 農家世帯の割合は、市内の総世帯数に對して約何パーセント？

- 1 1%
- 2 5%
- 3 10%
- 4 20%

